



の教室・行事予定

日	曜	教 室・行 事 等	～毎月10日は人権を考える日～
1	月	いきいき百歳体操（10:00～11:00） 大町体操（14:00～15:30）	ネット上でも差別的表現は絶対に許されない
3	水	フォークダンス（10:00～12:00） クラフト手芸（13:00～15:00）	近年、インターネットを中心とした情報流通の仕組みは、私たちの生活やビジネスにとって欠かせない存在となりました。
5	金	健康体操（13:30～15:30） 南子ども会（19:00～20:30）	しかし、その一方で、偽情報や誤情報、有害なコンテンツが拡散しやすい環境も生まれています。こうした問題に対処するため、私たち一人ひとりが十分な注意を払う必要があります。
6	土	人権啓発リーダー育成講座(10:00～11:30)	まず、情報の信頼性を確保する技術開発として、AI を活用
8	月	いきいき百歳体操（10:00～11:00） 大町体操（14:00～15:30）	して画像・映像だけでなく音声など多様なコンテンツの真偽判定を行う技術や、発信された情報の出所や内容の信頼性を評価する仕組みが整備されつつあります。
9	火	茶道（13:30～15:30）	次に、「情報流通プラットフォーム対処法」が 2025 年 4 月に
10	水	クラフト手芸（13:00～15:00）	施行され、インターネット上の権利侵害情報や誤った情報について迅速な削除対応を促進しています。
11	木	運営協力委員会（19:00～20:30）	さらに、情報リテラシー（情報を適切に判断し、情報に基づいて意思決定を行う能力）の向上も重要です。国では官民連携による意識啓発活動(DIGITAL POSITIVE ACTION) が進め
12	金	健康体操（13:30～15:30） 南子ども会（19:00～20:30）	られており、ウェブ CM やシンポジウム等を通じて利用者一人ひとりのメディアリテラシー（メディアが発信する情報を批判的に読み解き理解し活用する能力）向上を目指しています。
15	月	敬老の日	これにより、皆さん自身が不審な情報を見抜き、安全かつ適切にインターネットを利用することができるようになります。
16	火	茶道（13:30～15:30）	誰もが簡単に情報を発信できる今日、差別的表現は、他の誰かをひどく傷つけるだけでなく、豊かな社会形成にも悪影響を及ぼします。「他者への敬意と共感」を基本理念とし、「差別的表現は絶対に許されない」という明確なメッセージを伝え続け、「誤解や偏見から生まれる言動」に対しては、その背景や問題点について学習を進めながら、「自分自身の言動が誰かを傷つけている」可能性について、見つめ直すきっかけとしなければなりません。
17	水	フォークダンス（10:00～12:00） クラフト手芸（13:00～15:00） 健康相談（13:30～15:30）	西条市人権教育協議会 西条市人権擁護課
19	金	健康体操（13:30～15:30） 南子ども会（19:00～20:30）	
22	月	大町体操（14:00～15:30）	
23	火	秋分の日	
24	水	クラフト手芸（13:00～15:00）	
26	金	健康体操（13:30～15:30） 南子ども会（19:00～20:30）	
29	月	大町体操（14:00～15:30）	
【開館時間】 9:00 ～ 17:00 【休 館 日】 土曜日 日曜日 国民の祝日 年未年始(12/29～1/3)			

第 305 回 会館ミニ展示会

『 西条南中学校美術部展 』

【日 程】 9月9日(火)～19日(金)

【場 所】 大町会館1階廊下

ここ大町会館（隣保館）は、人と出会い、交流、つながる場です。偏見や差別、排除のない多様な生き方やこれからの社会の在り方を語り合う場です。人と人がつながり合う社会に関心がある方、何かを始めたいと思っている方、お気軽にお立ち寄りください。ご心配事、悩み事など各種相談、お申込み・お問い合わせは、**西条市大町会館（☎0897-55-5393）**まで、お気軽にご相談ください。

大町会館だより 9月号

2025(令和7)年9月 No.305

発行:西 条 市 大 町 会 館

〒793-0035 西条市福武甲 1644-1

TEL・FAX (0897) 55-5393

E-mail omachikaikan@saijo-city.jp

プロジェクト2008 と 若者塾

～【パネルディスカッション】第3回人権啓発リーダー育成講座～

連日記録的な猛暑が続く8月2日(土)、第3回大町会館人権啓発リーダー育成講座を開催しました。今回はこれまでの講座とは形式を変えて、あるテーマを元に進行役のコーディネーターからの問いかけに数人のパネリストがそれぞれに答えながら、その合間や終盤に会場内のフロアからも意見や感想を求めてテーマを追っていくという【パネルディスカッション】の手法を採りました。

コーディネーターには、前回の第2回講座で講師をしていただいた河野克典さんに引き続きお願いしました。今回のテーマは来る8月24日(日)に上演予定の人権啓発劇のことを踏まえると、河野さんが最適任者であると判断した次第です。

パネリストには、プロジェクト2008「若者塾」メンバーより金子佳弘さん(西条南中学校)、中谷優大さん(小松中学校)、野口優子さん(西条南中学校)の3人の方をお願いしました。

前半は、表題のテーマのもと河野さんからプロジェクト2008の紹介とこれまでの歩みを、そして「若者塾」についてスライドや資料を使いながらお話いただきました。

続いて後半のパネルディスカッションでは、河野さんからの問いかけに若者塾メンバーの3人がそれぞれに答えながら、フロアの皆さんとともにテーマについてその理解及びその背景となるものや、パネリスト一人一人の人権・同和教育観を聞かせてもらい、自分自身にも投影して考えるととても貴重な場となりました。その講座の内容や様子を一部紹介いたします。



【プロジェクト2008の紹介とその歩みについて】（河野さんより）

◆プロジェクト2008とは？

プロジェクト2008は2002年に西条市内の教員有志が中心となって立ち上げられ、2007年にNPO法人化された人権・同和教育研修並びに啓発活動を主たる活動内容としている団体です。この法人のいちばん特徴的な活動は「人権啓発劇の上演」です。西条市内に起きた人権問題や差別事件を直接取材し、それを市民の方に提起します。これまで第一作の「輝きを求めて」（結婚差別）から一昨年のハンセン病問題と部落問題を扱った「つなぐ」まで13作品を上演してきました。

◆人権啓発劇の制作における「2008 3つの誓い」とは？

その①・・・必ず西条市内にある人権問題を取り扱うこと。

その②・・・劇中で「あんな差別がある、こんな差別がある！」と人権問題を提起しただけで終わらず、問題の解決への道筋を必ず提示すること。

その③・・・誰かのために啓発劇を行うのではなく、参加者自身が学びを深めるために行うこと。

人権・同和教育は「いじめ」や「障がい者差別」「部落差別」などの被害にあっている人のためにやっているわけではありません。人権・同和教育を積極的に進めていけば、結果的に問題解決につながるものではありますが、人権・同和教育は様々な人権問題を「切り口」にして、私たち自身が自らの心の中にある差別心に「気づき」、「向き合い」、「克服する」ために学ぶものです。ですから、劇に参加した人たちもシナリオを学び、劇を作り上げる過程で同じように自分の心の中にある差別心に気づき、向き合い、克服する作業を行っているのです。

【「若者塾」について】（河野さんより）

今から9年前の2016年(平成28年)にプロジェクト2008の兄弟組織としてプロジェクト2008「若者塾」ができました。プロジェクト2008の設立に関わった私たち年寄りも、いつまでも組織の中心部にいたのでは組織が活性化しません。その年寄り組にいつまでも頼ってはいけないと西条市の次代を担う、まさに20代30代の頼もしい若者たちが立ち上がってつくられたのが「若者塾」です。現在、若者塾には市内の小中学校から56名の教員が参加し、人権啓発劇を中心に活動し、毎月学習会も開いています。

若者塾のメンバーは、この3人をはじめとして西条市の次代を担う素晴らしい教員がたくさんそろっています。どうやってそんなメンバーが集まったのかというと、それはやっぱり人権啓発劇につきます。これまでの人権啓発劇の取組で各学校から自主的に参加してくれた若い先生方がその取組の中で人権・同和教育の魅力に気づき、啓発劇だけでなく様々な活動を共にする中で学び、成長していってくれました。

学習会は、西条市が人権の日と定めている毎月10日を中心にその前後の集まりやすい日を設定して隣保館である氷見交友会館を拠点として活動しています。こちらも強制参加ではなく毎回集まれるメンバー約10名から20名が無理のない範囲で学習を続けています。学習内容は、部落問題学習の授業案審議や全人教、四人教大会等への参加報告、先輩教員による講話、何でも悩み相談など様々な内容で行っています。「若者塾」では、ほかにも最近の若者らしく、これまでのプロジェクトの活動をYouTubeにアップロードしてくれています。「人権啓発動画 西条市」を検索してみてください。

【パネルディスカッション】（コーディネーター:河野さん/パネリスト:金子さん、中谷さん、野口さん）

河野さんからのテーマに沿ったいくつかの問いかけを受けて、パネリストの3人の方がそれぞれに意見を発表してくださいました。その中から発言内容の一部を紹介します。

◆「若者塾の活動を通して学んだことは？」

（金子さん） かつては、他人事であり差別を残してきた自分が在った。差別問題に対してぶれる自分がいた。若者塾での様々な活動を通して、一つ一つのことを学んでいる自分がいる。若者塾の仲間と制作した人権啓発動画でも制作過程でその都度確かめたり調べたりすることを通して、多くのことを学ぶことができたと感じている。

（中谷さん） ①部落問題についての歴史を学ぶことができた。②「差別の現実」に深く学ぶことができています。③自分の「差別心」と向き合うことができ始めた。④差別をする立場ではなく、差別をなくそうとする立場に立てている。

（野口さん） 様々な観点で学ぶことができる場である。相談できる場であり、年齢を重ねる毎に気づきがある。このような学びの場に参加できることはとても有難いと感じている。

◆人権啓発劇「最高のスタート」について～啓発劇の中での自分の役割

◆啓発劇への思い入れなど

（金子さん） 舞台・美術を担当しています。人権劇に必要な道具の手配や劇中のそれぞれの幕に応じた道具のアレンジ、本番でのスタッフの役割分担や図面の作成などを行っています。舞台転換では間が空き過ぎないように30秒と限られた時間内で転換・配置が整うようにスタッフ全員が黒子に徹し、キャストの演技を支えています。多くの仲間と共に劇を創り上げていく喜びを感じています。

（中谷さん） キャスト(舞台演者)の一人、斎藤先生役で登場します。クラスの中の足の不自由な正夫やその母との関わりから様々なことを学んでいきます。この人権劇への参加を通して差別をなくす立場に立てたこと、そして一つ一つのセリフの思いを感じ、考えながら演じていきます。

（野口さん） 音響(BGM)を担当します。劇中のBGMの選定やその音量や音の流し方の調整など、この場面はどんな意味をもつ場面かを考えながら準備を進めています。自分自身、これまでの人権劇への関わりから多くの事を学んできました。今回の劇には中学生たちが多くの場面で出演します。自分の学級や学年に所属する生徒もいます。練習や本番を通しての、生徒たちの成長も楽しみです。



【第4回 人権啓発リーダー育成講座のご案内】

令和7年度 第4回人権啓発リーダー育成講座を下記の通り実施します。

【日 時】 9月6日(土) 10:00～11:30

【場 所】 大町会館2階 大会議室

【講 師】 ナースログ 越智 邦夫 さん 山内 由紀 さん

【演 題】 『月歪むにあらず 波騒ぐなり』